

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (伊勢工業高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		・ 地元企業の人材育成を軸に、一人ひとりが望む進路の完全保障を実現する工業高校
(2)	育みたい 児童生徒像	○基本的な生活習慣を身につけ、社会常識のある明るく素直な生徒(ひとつくり) ○産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒(ものづくり)
	ありたい 教職員像	○学校教育目標の達成に向けて、教職員が教育活動の実践や改善のために、相互に共同し切磋琢磨する関係性(同僚性)を保ちつつ、失敗を恐れずに前向きにチャレンジし続ける教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈生徒〉 卒業後の進路希望は、就職が約8割、進学が約2割である。また、資格の取得や活発な部活動に期待している</p> <p>〈保護者〉 保護者の多くは、子どもの地元企業への就職を希望している。</p> <p>〈地域〉 元気で素直な生徒の育成に期待をしており、特に地元企業からの期待が大きい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p>〈家庭〉 日常の子どもの様子を知らせてほしい。</p> <p>〈中学校〉 学校の様子、卒業生の近況報告、入試状況を知らせてほしい。</p> <p>〈地域社会〉 地域の活性化のため、地域行事や防災面で施設や生徒の協力をお願いしたい。</p>	<p>〈家庭〉 本校教育方針への理解と協力をお願いしたい。</p> <p>〈中学校〉 継続的な指導が必要な個々の生徒の情報共有をお願いしたい。</p> <p>〈地域社会〉 本校の教育活動を理解し、積極的に協力して欲しい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○工業高校のPRとして出前授業や各種イベントへの参加は大いに役割を果たしている。ただ、教員の負担も大きいのではないかと。少人数できめ細かく指導する実習などを公開してアピールするなど、負担も少なくPRできる方法を考えることも必要である。</p> <p>○働き方改革が言われる中で、先生方の時間管理、過重労働対策が今後必要になる。</p> <p>○コミュニケーション能力の育成が求められているが、特に社会において必要とされるコミュニケーション能力をつけるためには指導に時間と手間がかかると思われる。先生や先輩とのコミュニケーションが大切である、</p> <p>○クラス減となるなかで、進路先の割り振り、企業への対応が難しくなるのではないかと。生徒の進路希望を叶えるため、より丁寧な進路指導が必要になる。</p> <p>○伊勢工業高校が地域に根付いていくためには、生徒一人ひとりが、伊勢工業高校の生徒として地域に認められることが大切である。そのために、身だしなみ、けじめ等、なぜその必要があるのかも含めて指導していかなければならない。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p><現状> 在学中に様々な資格取得を目指し、卒業後は地元企業へ就職する生徒が多いことから、生徒・保護者・地域のニーズには合致している。</p> <p><課題> 企業が求める人材は、現在より一段高いところ(異世代間でも適応できるコミュニケーション能力、基礎的な学力の確実な習得、より高度な資格取得等)にあり、そのニーズに応えていく必要がある。</p>	

学校 運営等	<p><現状>本校の教育活動を理解してもらうため、小学校への出前授業や地域のイベント等に積極的に参加しており、地域からは一定の評価をいただいている。地域も非常に協力的である。</p> <p><課題>活発な部活動に加え、地域からの期待や要望に応えようとするあまり、土日のイベント参加も多くなり、教職員も子どもたちも疲れてきており健康管理が心配である。参加するイベントの精選・工夫や日常業務の改善による総勤務時間の縮減を積極的に行い、教職員や子どもたちの過重負担を減らしていく必要がある。</p>
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図る。 ・基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた明るく素直な生徒を育成する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深める。 ・第1希望の進路の獲得を目指し、基礎学力向上に向けた取り組みの充実と表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組む。 ・教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科指導	<p><u>分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図ります。</u></p> <p><u>「高志」ある生徒が、卒業時に取得すべき資格等を明確にして、取得するための体制づくりに取り組み、成果を上げます。</u></p> <p>(1)1年生から計画的、段階的に取得技術の高度化を図るとともに、実用に即した資格取得に重点をおいて、補習授業等も行いながら教育実践に努めます。</p> <p>(2)実習・課題研究や製図の取り組みの中で、技術技能の向上並びに表現能力に長けた生徒の育成を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)ものづくり大会の参加 ・ものづくり東海大会へ出場</p> <p>(イ)技能検定3級程度の技能練習</p> <p>(ウ)建築設計競技会の参加</p> <p>【成果指標】</p> <p>*資格取得【別表】参照</p>	<p>(1)(2) 各科の特色に応じた資格取得の取り組みの成果として、職業教育顕彰47人(昨年度27人)、ジュニアマイスター32人(昨年度17人)など、大きな成果を上げた。(別表)</p> <p>(ア)ものづくりコンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気工事部門 5位・7位 ・木材加工部門 優勝、準優勝(東海大会出場) <p>(イ)技能検定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子機器組立3級32人合格 ・シーケンス制御3級(2月受験) ・建築大工3級5人合格 ・機械保全3級4人合格 <p>(ウ)建築設計競技会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本建築士会連合会主催建築甲子園 全国ベスト8、審査委員長特別賞 ・日本大学主催 全国建築設計競技 審査委員特別賞 ・愛知産業大学主催デザインコンテスト 最優秀賞 ・九州産業大学主催 建築設計競技 銀賞 	

	<p>(3)図書館の取組として、生徒の「生きる力」を育むため、各教科・各分掌との連携のもと、生徒の世界を広げる読書案内・学習活動につながる教育支援の充実に努めます。</p> <p>【成果指標】 生徒1人当たり貸出冊数 5冊以上</p>	<p>(3) 2月18日現在、生徒1人あたり貸出冊数4.7冊で、年度末には目標を達成すると思われる。</p> <p>高校生ビブリアバトル南勢志摩地域大会に生徒がバトラー(発表者)と聴衆で参加し、バトラーが地域代表に選出され、県大会に出場した。</p>	
<p>生徒指導</p>	<p><u>基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直な生徒を育成します。</u></p> <p>(1)挨拶の励行や時間の尊重、身だしなみや礼儀作法に気を配り、ルールを遵守するなど、生活規範を身につけた生徒を育てます。</p> <p>【活動指標】 (ア) 全教員による登下校校門指導と校内巡視(毎日)、挨拶の励行 100% (イ) 駅前・町内巡視の実施 (ウ) 5分前精神の徹底(時間を守る・遅刻しない) (エ) 授業に集中させるために入室許可証の発行実施 (オ) 頭髪服装指導(通年)・身だしなみ講座(4月)の実施</p> <p>【成果指標】 (ア) 挨拶の励行 100% (イ) 遅刻の回数 昨年度比25%減</p> <p>(2)日々の授業や学校行事等、教育実践全般を通じて継続的モラル教育を実践します。</p> <p>【成果指標】 (ア) 欠席日数の減少 (イ) 校則違反等による特別指導件数の減少(10件以下に減)</p> <p>(3)工業高校生としての連帯感を高め、良好な人間関係の構築に努めます。</p> <p>【活動指標】 (ア) 新入生研修の実施(4月) (イ) 各科や各学年を通じた指導 (ウ) 部活動での人間関係の育成 (エ) 生徒個別面談(年間2回)や学校生活等に関するアンケート(各学期)の実施などによる、いじめの防止、早期の把握・解消</p>	<p>1月末比較(過去5年間)</p> <p>頭髪指導(延べ人数・増減) H26・ H27・ H28・ H29・ H30 481・ 249・ 213・ 299・ 179 ▲48%▲15% 40% ▲40% ・生徒指導部だけではなく、学年団や科の取り組み(事前指導や不合格者への指導等)により、不合格者は少ない状況である。 ・昨年度は例外的に1年生が5月まで多い状況であったため、人数的にかなり増加したが、今年度は1クラス減少した事を差し引いてもかなり改善が見られた。</p> <p>遅刻(延べ人数・増減) H26・ H27・ H28・ H29・ H30 548・ 382・ 400・ 319・ 309 ▲30% 5% ▲20% ▲3% ・ここ数年間登校時間厳守の意識が定着してきており、遅刻数は少ない状況となっている。しかし、今年度は1クラス減少したにもかかわらず、ほぼ昨年度と同数であり、実質的には微増と考えられる。 ・6・11・2月の遅刻防止月間をH26より導入し、成果がでているので、今後も続けていきたい。</p> <p>特別指導謹慎等(延べ人数・増減) H26・ H27・ H28・ H29・ H30 44・ 42・ 13・ 25・ 17 ▲5% ▲69% 92% ▲32%</p>	

	<p>【成果指標】 いじめの認定数ゼロ(いじめアンケートより)</p> <p>(4)学校の様子を積極的に保護者に発信し、生徒・保護者との意思疎通に努め、生徒指導の意義や目的への理解を高めます。(保護者や学校関係者以外の意見、HR活動や個別懇談の状況把握等の実施)</p> <p>【活動指標】 (ア) 保護者会やPTA諸会合での説明 (イ) 学年懇談会での話し合い (ウ) 生徒個別面談を年間 2 回実施、学校生活等に関するアンケートを各学期に実施</p>	<p>・本校に限らず、悪質な犯罪・非行行為は減少傾向にある。本校において、今年度は集団での問題行動があったものの、特別指導人数が大幅に減少した。ただし、校内での盗難や悪質な落書きが発生し、未解決事案となってしまった。また、近年問題視されている、SNSトラブルはかなり頻繁に起こっている状況で、本校でもいじめと認定した事象が発生した。</p>	
進路指導	<p><u>第 1 希望の進路が獲得できてこそ、活気ある工業高校が実現できます。基礎学力向上に向けた取り組みの充実と、面接が「自分の人となりの魅力を伝える」場となるよう表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組みます。</u></p> <p>(1)キャリア教育を推進して、生徒・保護者の希望に合った進路実現をめざします。</p> <p>【活動指標】 (ア) 県内外への企業訪問をさらに拡充し、求人企業数・求人数・内定者数の向上に取り組みます。 (イ) キャリア教育を推進して、正しい職業観・勤労観を身に付けさせ、主体的に進路選択進路決定できる生徒を育て、生徒のニーズに応じた望ましい就職・進学先の決定につなげます。 (ウ) 表現力・コミュニケーション能力向上のため、全職員及び外部講師を活用し「面接指導」、「みだしなみ講座」等を実施・充実させます。</p> <p>【成果指標】 (ア) 一次試験合格率、就職90%以上・進学100%を目指します。 (イ) インターンシップの実施人数を昨年度の 2 倍を目指します。</p>	<p>1・2年次では、英語・数学・国語、3年次後半からは、各種就職試験に対する取り組みを実施し、学習習慣の確立を図るとともに、確恐テストを実施することで、学力の定着を図った。また、基礎力診断テストで基礎学力を測定し、自分の学力を客観的に把握することで進路決定に役立てるとともに、学習の成果から新たな目標を持たせた。</p> <p>学校単位による就職内定率は100%(1月末現在)。</p> <p>進学については四年制大学14名(国立大1名含)、短期大学1名、高等専門学校名、専門学校13名、その他各種学校2名の、合計31名が合格した。また、警察官、消防官、自衛官である公務員試験もそれぞれ1名ずつ合格した。</p> <p>本年度の就職における一次試験の合格率は92%であり、進学においては99.4%の合格率でした。</p> <p>インターンシップにおいては、受け入れ企業数を増やし、人数の増加を図ったが、全国高校総体と重なったことで、参加可能な生徒が少なく、昨年度より若干の増加となった。</p>	
改善課題			
<p>○資格取得については昨年より成果を上げたが、各科や学年による差をなくし、学校全体の取組としていくことが必要である。</p> <p>○生徒指導上の問題行動は減少しているが、SNSによるトラブルが頻繁に発生しており、対策を考えていく必要がある。</p> <p>○就職については求人数が増加したこともあって、一次試験での合格者が92%と好調であり、進学についても国公立大学に合格者を出すなど進路実現において成果があったが、さらに基礎学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上に取り組む必要がある。</p>			

【別表】() は実績

資格取得 合格者数の 目標値	資格、検定	機械科	電気科	建築科
	危険物取扱者丙種	1年生80人(62)	1年生39人(38)	
	危険物乙種4類	2・3年生40人(24)	40人(15)	2・3年生3人(2)
	ガス溶接技能講習	2年生80人(78)		
	基礎製図検定	2年生50人(69)		
	機械製図検定	3年生40人(40)		
	技能検定(機械保全)3級	10人(4)		
	技能検定(機械検査)3級	10人(受験なし)		
	小規模ボラ講習	50人(40)		
	電気工事士2種		2年生50人(64)	
	電気工事士1種		2・3年生10人(8)	
	電気主任技術者3種		3年生1人(0)	
	第二級陸上特殊無線技士		2・3年10人(27)	
	第二級海上特殊無線技士		2・3年10人(12)	
	福祉住環境コーディネータ3級			全学年5人(7)
	2級建築施工管理技術検定試験			3年生3人(1)
	カラーコーディネータ3級			全学年8人(4)
	建築CAD検定3～4級			2・3年生70人(50)
	レタリング検定3、4級			全学年40人(38)
	建設業経理事務士3級			2・3年生15人(33)

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p><u>教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努めます。</u></p> <p>(1)教職員が意欲的に業務に取り組み充実感を得ることができるよう、組織の在り方や業務内容の見直し、過重労働の削減などにつながる快適な職場作りに取り組みます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア) 会議時間を短縮し60分以内に終了します。 (イ) 定時退校日を月1日設定します。 (ウ) 部活動休養日を週1日設定します。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(ア) 放課後に実施し60分以内に終了できなかった会議数 10以内 (イ) 定時退校日に定時退校できなかった教職員数 10人以内 (ウ) 部活動休養日を設定した部活動数 100% (エ) 1人あたりの月平均時間外労働時間 昨年度比 15%減(平均 22 時間(昨年度 25.9 時間) 年間休暇取得日数 昨年度比1日増 21日/人(昨年度 19.7 日) 月 80 時間を超える時間外労働者を 50 人に減少(昨年度年間延べ 68 人) (オ) 職員満足度調査を実施し実態を把握すると共に、働きやすい職場への改善につなげます。</p> <p>(2)分掌、学年団のブロックを活用するなどし、更に対話を促進します。</p> <p>【活動指標】</p> <p>職員室の席配置を学年団のブロックで配置し、日常の対話を促進します。</p>	<p>(1) (ア) 60分以内に終了できなかった会議数 1 (4月～1月) (イ) 定時退校日に退校できなかった教職員数 4月 0人、5月 3人 6月 4人、7月 2人 8月 1人、9月 3人 10月 4人、11月 5人 12月 2人、1月 4人 (ウ) 各部において週に1日以上休養日を設定できなかった部活動の延べ数 4月期(4週) 6 5月期(5週) 7 6月期(4週) 3 7月期(4週) 2 8月期(5週) 4 9月期(4週) 5 10月期(4週) 6 11月期(5週) 3 12月期(4週) 6 1月期(4週) 2 (エ) (1月末現在) 時間外 23.7時間(目標22時間) 休暇取得 16.8日(目標21日) 長時間労働 48人(目標50人)</p> <p>(2)職員室に配置された学年団のブロックにより各科の縦の情報共有とともに、学年としての横の情報共有が進んでいる。</p>	
地域との連携	<p>南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深めます。</p> <p>(1)地域関係者(小中学校、学習塾、地元自治会、関係機関)との連携強化に向けて、各種行事やイベントに積極的に参加します。</p>	<p>(1)地域との連携 ・地域のイベントである七夕大そうじへ参加予定で計画したが、テスト期間と重なり、本年度もPTAのみの参加となった。</p>	

地域との連携	<p>【活動指標】 小学校出前授業の実施、伊勢工業高校テクノドリームフェアの開催、中学校教員対象説明会の開催、七夕大そうじへの参加など</p> <p>【成果指標】 参加者のアンケート、感想から、南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を確認し、改善につなげます。</p> <p>(2)地元企業との連携強化に向けて、双方向からの情報発信・相互理解を深めるための行事を実施します。</p> <p>【活動指標】 地域における就職促進につながるよう、地元企業の高校内企業説明会を実施します。</p> <p>【成果指標】 企業、生徒双方の満足度90%以上(満足度アンケートより)</p>	<p>・地域の清掃活動「ごみゼロウォーク」に生徒会から参加者を募り、各クラブを中心に参加した。</p> <p>・2日間にわたり、小学校4校(北浜小、城田小、修道小、佐八小)への出前授業を実施した。</p> <p>・伊勢工業高校テクノドリームフェアは雨天のため中止となった。</p> <p>・中学校教員対象の説明会を開催した。</p> <p>(2)地元企業との連携</p> <p>・1、2学年対象に地元企業の説明会を12月に実施した。3月にも1、2学年対象の地元企業説明会を予定。</p>
--------	---	---

改善課題

- 会議時間の縮減、定時退校日・部活動休養日の徹底については昨年度より大きく進展し、総勤務時間の縮減につながりつつある。目標を達成するためにさらなる一手が必要である。
- 地域唯一の工業高校として、さらに地域に根ざした開かれた学校づくりを進め、存在感を高める必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃からものづくりに興味を持ってもらうため、出前授業や体験フェアを継続して実施してほしい。 ・インターンシップ、進路体験報告会は1、2年生にとっても参考になるので保護者にも見てもらうといいのではないか。 ・地域との連携ということでも、外部講師の活用をさらに進めてはどうか。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにつながるSNSのトラブルについては、生徒会等を中心として「子どもたち自身が考える対策」を実施する。 ・基礎学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上については、未来検討委員会での検討課題とし、具体的な取組を模索する。 ・インターンシップや地域企業と連携した取組をさらに進める。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・総勤務時間の縮減に向けて、常に進捗状況を意識しながら現在の取組(定時退校、休日取得、部活動休養日)を徹底する。 ・これまでの出前授業などの取組に加え、次年度開催の「工業高校生フェア」を成功させ、地域での存在感を高める。